

日野皓正 Quintet with Special Guest 熊谷和徳

ARTIST PROFILE

日野皓正 クインテット



日野皓正 (tp.) 日本を代表する世界的ジャズトランペッター

1942年東京生まれ。9歳よりトランペットをはじめ、13歳の頃にはダンスバンドで活動を始める。デビュー以降、マスコミに”ヒノテル・ブーム”と騒がれるほどの注目を集め、’75年に活動拠点をNYに移し、数多くのミュージシャンと活動。またアルバムセールスにおいてはジャズの枠を越えたヒットを連発し、CM、TV出演など多方面で活躍。1989年にはジャズの名門レーベル“ブルーノート”と日本人初の契約アーティストとなる。2001年芸術選奨「文部科学大臣賞」受賞。2004年紫綬褒章、文化庁芸術祭「レコード部門優秀賞」、毎日映画コンクール「音楽賞」受賞。2019年 春の叙勲 旭日小綬章を受章。近年は公演の他、チャリティー活動や後進の指導にも情熱を注ぐ他、個展や画集の出版など絵画の分野でも活躍が著しい。唯一無二のオリジナリティと芸術性の高さを誇る日本を代表する国際的アーティストである。

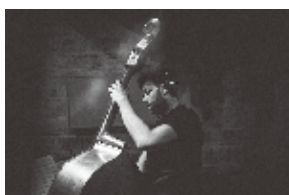


加藤一平 (gt.)

1982年東京都出身。20歳の時にギターを独学はじめ、都内各所のセッションで腕を磨く。23歳の時、NYへ。ジャムセッション、ライブで腕を磨く。帰国後、鈴木勲OMA SOUND、日野皓正クインテット、渋さ知らズ、Fuwa Works (from 渋さ知らズ)、など、多数のグループのサポートメンバーとしてライブやレコーディングで活躍している。また自身のバンド「鳴らした場合」での活動でも注目を浴びている。

高橋佑成 (pf.)

1994年東京生まれ。明治学院大学文学部芸術学科卒業。13歳の頃から独学でジャズを始める。その後中学生対象の世田谷ドリームジャズバンドに加入。日野皓正氏を始めとしたジャズミュージシャンに触れ音楽を学ぶ。現在は世田谷トリオ、m° fe、日野皓正クインテット、自身が主宰する音楽ユニット”秘密基地”、STUTSや七尾旅人、Mirage Collectiveなどのバンドに参加し、ジャズに限らず多岐に渡って活動している。



Marty Holoubek (b.)

オーストラリア出身。アデレード大学音楽科、モナシュ大学大学院音楽研究科を卒業。在学中より数多くの素晴らしい音楽家と活動を共にする。2015年に初来日。2018年から拠点を東京に移し、2019年-2020年のムジカ・ピッコリーノ、崎山蒼志、ROTH BART BARONのベースプレーヤーとして活躍。現在もAnswer to Rememberをはじめとする人気グループにて活躍する他、日本とオーストラリアの国際交流にも力を注いでいる。

高橋直希 (ds.)

北海道江別市出身。小学1年から中学3年までの9年間札幌ジュニアジャズスクールに在籍。在籍中はタイガー大越、渡辺貞夫、デビッド・マシューズなどから指導を受ける。2016年以降、札幌市内を中心に势力的にライブ活動を行う。2017年8月パークリー音楽大学講師陣による、北海道グループキャンプを受講しBerklee Awardを受賞。2018年11月日野皓正クインテットのメンバーとして3公演に参加。2020年上京し、日野皓正クインテット他、大橋トリオなど多数のバンドに在籍しライブ活動を行なっている。



Special Guest 熊谷和徳

15歳でタップを始め19歳で渡米。NY Times誌に「真のタップアーティスト」と評される。

2006年には米ダンスマガジン誌より「世界で見るべきダンサー25人」に選出、14年にNYにてFlo-Bert Award、16年にはBessie Awardを受賞。

19年版ニューズウィーク誌が発表した「世界が尊敬する日本人100人」に選出される。

現在はNYと日本を2大拠点とし、ヨーロッパやアジアなど世界各地に活動の場を広げる。独自の唯一無二のアートは日々進化し、新たなタップダンスの未来を創造している。

東京2020オリンピック開会式において出演、振付、作曲を行う。